

## 平成 24 年度の展観事業の実施状況

## 1 美術館の展観事業

平成 24 年度中の金谷美術館の展示事業は、3 の通りである。展観事業の収支は非常に厳しい状況であるが、地域振興及び豊かな街づくりのため、当公益財団法人は継続して展観事業の充実に努力し推進して行くことにしている。

## 2 平成 24 年度公益財団の展示事業と金谷美術館入館者数

平成 24 年度（3 月迄）の入館者数は 4, 983 人である。前年度の入館者 6, 264 人に比較して 1, 281 人減少しているが、有料入館者は 3, 514 人と 248 人増加している。（前年度は「海を越え支え合う子ども達展」が無料入館で 1, 020 人あった）

## 3 展示事業

## ●立原杏所 展 4 月 7 日～5 月 13 日（営業日数 32 日）

当館の収蔵品である立原杏所に焦点をあて企画した展覧会。展示した作品は全て中野雅宗氏から寄贈された作品で、本館は立原杏所、別館は杏所の師弟や交友関係のあった作家の作品を展示。作品は中野氏が長年かけて日本全国から収集した立原杏所の作品であり、本邦初公開の作品も多数あった。図録は約 100 万円を費やし作成し、初作から晩年までの作品解説、当時の師弟交遊関係などを写真付きで掲載。

## ●久住三郎 展 5 月 19 日～7 月 29 日（営業日数 63 日）

2011 年に続き 2 度目となる久住三郎展は、初作から本邦初公開であり展覧会チラシのデザインとしても使われた晩年の作「燃ゆ」を展示。各時期の代表作はもちろんのこと、作画の過程を示す下図、雑誌や手記に記された久住の言葉、友人へ宛てた手紙の文章などを約 90 点展示。期間中にアンサンブル uva（ウーヴァ）のミニコンサートを開催。また、久住夫人による植物スケッチ講座を海の見えるアトリエ、KANAYA BASE にて開催し、15 名程の方達が参加した。

## ●動物 GAAA! 展 8 月 4 日～10 月 21 日（営業日数 73 日）

江戸期から近代までの動物が描かれている作品を展示。これも中野雅宗氏の寄贈品や他収集家の作品の無償貸与があり実現した企画。同じ動物でも作者によって描き方の特徴がよく表れ、また時代によって空想画～実写までの大きな違いを発見することができる。

夏休みということもあり、子どもを対象にした催し「自分のペットの写真やスケッチを飾ろう☆」を企画した。期間中、館内廊下に大きな模造紙を貼り、自分のペットの写真やスケッチを持ってきてくれた方はそれを貼ってもらった。またそこに動物の絵を描きたがる子どもだけでなく大人も多く、最後は模造紙に貼ったり描く所がなくなるほど多くの参加を頂いた。

●増田誠 展 10月27日～2013年1月14日（営業日数66日）

初の試みである油絵を展示した。増田誠はフランスのパリで約30年活躍した洋画家であり、都市や人々が培ってきた歴史を情感豊かに表現した作品を多く残した作家。美しい水の反射を描くことから「水の増田」という通称がある。当館に展示した作品の一部にはパリの漁師町の絵があり、海沿いのまちである金谷の港に浮かぶ漁船やフェリー、マリーナの風景には増田誠の作品に通じる。

本企画で展示した作品は渡仏後からこの世を去るまでの作品であり、特に故郷である山梨から望む富士山の絵は何種類も展示し、各々違う顔を持つ作品が楽しめた。

●藤原幸一 写真展 1月19日～4月7日（営業日数68日）

生物ジャーナリストである藤原幸一氏は野生生物の生態や環境問題に視点をおいた生物ジャーナリストとして世界中で取材を続けており、本企画展では氏が世界中で起きている環境問題の具体事例を写真を用いて伝えている。作品の中にはかわいらしい動物の作品や、産まれた時から一緒に暮らしている人間と動物の写真など微笑ましい作もあるが、世界で起こっている厳しい現状を写真で伝えることをモットーとしている。

同時に公募写真展を2月2日から KANAYA BASE にて開催。藤原氏や市の教育委員長、地元企業のスタッフなど数名審査員を設け、賞を決め表彰式を藤原氏のトークイベントと併せて行う。またイベントとして、「竹のドームを造って漁網で飾って星をみよう」など講師を招いて本格的な竹ドームを造る大掛かりなワークショップも開催する。

期間中2月10日にフコク生命の共催でバリアフリーコンサート、又最終日の4月7日には藤原氏の知人である音楽家、伊藤エリカ氏によるミュージアムコンサートを実施した。

※日本財団の助成あり